

## 平成22年度 事業報告

下呂市では、昨年度入湯税の財源を観光振興事業に特化して重点配分して頂きました。

国では観光庁が、魅力ある観光地づくりによる宿泊日数の増加、「尽きることのない感動に出会える国 日本」の新キャッチフレーズで外国人客誘致を、また、岐阜県では「飛騨美濃じまん運動」、「全国豊かな海づくり大会」、24年度の「ぎふ清流国体」に向けた動き、ウェルネスツーリズムなどの施策が進められました。しかしながら長引く不景気の中で、本年3月11日には未曾有の東日本大震災に接し、当地にも多大な影響が有り、厳しい現実に向き合った結果、22年度の下呂温泉の宿泊客は96万5千人と前年度対比4%の落ち込みとなりました。

JR東海では「Shupo」、「飛騨路キャンペーン」、「JR さわやかウォーキング」などの展開、旅行各社では地域体験型の旅行企画の需要が多くありました。下呂駅開業80周年も皆様のご協力のもと無事に終える事が出来ました。

こうした中で、宿泊客の増加を目指し即効的な誘客対策と、将来に向けての人材育成や魅力ある観光地づくりを進めてまいりましたが、多様化するニーズに応えるため、地域での観光コーディネーターの役割が求められおり、岐阜の宝ものや魅力を生かした提案、様々な手段やパブリシティでの情報発信、各地での観光物産展、キャラバンなどによる、誘致宣伝事業および観光客誘致会議などを開催しました。

恒例の「いでゆ夜市」以外にも、「YOSAKOI ソーラン」、「G1グランプリ」、「思い出CMプロジェクト」など新たな事業実施や、「花火ミュージカル冬公演」、「下呂温泉花火物語」など市や関係団体との連携、また、最近特に増えてきた街歩きや朝市などのニーズへの対応や植樹・清掃活動などの環境整備事業、近隣観光地との連携を深め複数泊できる魅力ある観光地づくりを目指し、おもてなしの向上を図ってきました。また、高山本線強化促進、研修事業としての「車上セミナー」の実施、並びに日本三名泉との交流を図ってきました。

昨年度からは下呂市観光協会連絡協議会の事務局を担当することになり、市内の一層の連携で魅力ある観光地づくり、誘客事業に努めてきました。

下呂市、下呂商工会、下呂温泉旅館協同組合などとの連携を強化し、経済の活性化、雇用の拡大を図る事業を進め、下呂交流会館「アクティブ」を中心に、「MICE」によるコンベンションを様々なチャンネルで誘致するように努めてきました。

アクセスの向上、河川整備、安全確保のための基盤整備、“ワイドビューひだ”の大阪直通便の増発などを関係機関へ働きかけてきました。

また、下呂市台湾事務所の効果的な運用、韓国との交流などから外国人誘客のための招致事業や観光展への参加など、インバウンド事業も積極的に進めてきました。

雇用と下呂温泉の魅力を再発見するための「ふるさと雇用再生特別基金事業」の助成を受け、「下呂温泉魅力アップ支援事業」として引き続き2名の職員を雇用し、多様化する旅行需要に対応すべく、資料の作成、人材の育成を図りました。

その中で、復興支援にご協力いただいた皆様、併せて各事業において、積極的にご協力いただいた方々に深く感謝申し上げます。